



@幸せな贈り物

いまは うらんで いません…



苦しいときは、静かに取り出して読む本があります。両親がいなくなった子どもたちの手記です。一冊一冊購入して読んだ本が、いつのまにか5冊になりました。今日は、家族の大切さを思いながら読んだ内容の中から〈明け方を開く子どもたち〉という本に出てくる文章を思い出します。

「人々は私を孤児だと言います。小学校3年のとき、いつもけんかしている親の姿に、私たちの家庭はさびしかったのです。その日も、親はひどくけんかをした後、互いになかなかおりをして溪谷へ和解の避暑に行きました。私たちの家族は久しぶりに幸せでした。ママの顔には久しぶりに笑いの花が咲いて、パパも私たちと楽しい時間を持ちました。一生このように過ごしたいと思いました。この世の何もうらやましいことはありませんでした。溪谷で楽しい時間を送って、私たちは家に戻りました。しかし、パパは、どこからかかかってきた電話を受けて、行かないでと言うママの願いを振り払って、家を出て行きました。私たちは早くベッドに入りました。その日は、ママはとても落ち着いていると思えました。私たちのベッドまで来て見ていてくれたからです…そのように、その日の夜のママは、私たちのそばを永遠に離れませんでした。そのときのママの悲壮な決心を少しだけ、早く知ることができたとすれば…

それ以後、2人の新しいママがきたのですが、結局は、私たちに暴力の傷だけ残したまま離れていきました。パパも、家を出て行った後、もう会うことはありませんでした。そのように、私は孤児になって、親がない子どもたちという声を聞き始めました。本当に、大変で、あきらめたいとき、私たちの兄弟姉妹にも、多くの方たちの暖かい救いの手助けがありました。今は、からだも心もたくさん強くなって、少しのことでは涙を流しません。そのような人々を通して、暖かいこの世を知らせてもらえたことを感謝しています。そして、ママのことを考えると、いつも切なる思いになって、憎かったり、心の中に苦しい思いが渦巻きます。ママ!

今は嫌いません。天国という気楽なところで私たち4人の兄弟姉妹が強く生きていく姿をいつも見守って、最後まで私と弟たちが良く育つことができように応援してください」

素敵な作品を描きたいと思う画家がいました。ある日、彼は結婚を前にして備えている新婦に、世の中で最も美しいのが何かと尋ねました。すると新婦は照れながら答えました。「愛ですね。愛は貧困を裕福に、少ないことを多くに、涙も甘くさせるでしょう。愛なくては美しさもありません」画家はうなずきました。

今度は、牧師に同じ質問を投げたところ、牧師は「信仰です。神様を信じる切実な心こそ、世の中で最も美しいです」と言いました。彼は牧師の話にもうなずきました。

しかし、それより、さらに美しい何かがあるように思いました。ちょうど過ぎ行く疲れた兵士に尋ねたところ、兵士は「何よりも平和が最も美しく、戦争が最も醜いですね」と答えました。その瞬間、画家は愛と信仰と平和を一ヶ所に集めれば素敵な作品になると思いました。

その方法を考えながら家に戻った彼は、子どもたちの目の中に信仰を発見しました。また、妻の目には愛を見ました。そして、愛と信仰で立てられた家庭に平和があることを悟りました。しばらくして、画家は世の中で最も素敵な作品を完成しました。それは、他でもない家族の幸せを込めた「家庭」でした。ある人は、家族 Family とは“Father and Mother I love you.”と表現したりもしました。

地球上で最も幸せな家庭のために…聖書を見れば、神様が人間の幸せのために造られた2つの制度があります。その最初が家庭で、二つ目が教会（礼拝）です。家庭は創造の働きの完成で、教会は救いの働きの絶頂だと言われたりもします。

神様が家庭に約束された祝福は次のとおりです。

最初に、家庭と夫婦は神様がくださった最高の贈り物です。神様は人を創造して祝福してくださいました。「**神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。『生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。』**」（創世記 1:27~28）そして、人がひとりで暮らすことが良くないと、助け手を造られました。「**神である主は仰せられた。『人が、ひとりであるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。』**」（創世記 2:18）神様はアダムのために、彼のあばら骨一つを取り出して、女を造られました。そして、アダムに連れて来られました。アダムがエバを見て「**これこそ、今や、私の骨からの骨、私の肉からの肉。**」（創世記 2:23）と告

白しました。そうです。妻は夫の骨からの骨であり、肉からの肉なのです。

ところが、ある人は自分の妻を見て「これは私の失敗の中の失敗、敵の中の敵だ」と言う人もいます。これがどれくらい悲惨な話でしょうか。夫と妻は人格的に互いに尊重して対話できる関係です。こういう関係にならない夫婦と家庭は、すでに危機がきたのです。夫と妻は互いに連合しなければなりません。ひとつのからだを成し遂げて「私」と「あなた」ではない「私たち」という新しい共同体になったのです。

二つ目、家庭は創造主の神様の最高の作品です。神様は、家庭をお造りになった後、安息されました。家庭のなかで幸せに生きていくアダムとエバの姿は、神様には最高の喜びだったのです。人間は、神様のかたちとして造られた存在で、神様と交わることができる霊的存在です。彼らに神様がくださった家庭は、喜びと楽しみがあふれる所です。すべてがありのまま認められる所で、心の健康を保つことができ、すべてのことを下ろせる所だからです。それで、アダムとエバの家庭をエデン Paradise の園に置かれたのです。三つ目、神様は家庭を祝福されました。神様は家庭で「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」と言われました。（創世記 1:28）

ところで、このように大切な家庭が、今日、大きい危機を迎えています。だれがどのように危機を迎えている家庭を救うことができるのでしょうか。創造主の神様に会う道の他には、他の方法はありません。それゆえ神様は、人間の本来の祝福と幸せを回復する「イエス・キリスト」を送ることを約束してくださいました。キリストは創造主の神様に会う道です。キリストはすべての人間の不幸の根本原因である罪とのろい、運命から解放される道です。キリストは、人間の不幸の根源者であるサタンと暗やみの勢力の手から抜け出る道です。そのキリストがまさに「イエス」なのです。イエス・キリストを通して神の子どもになるとき、危機を迎えている貴重な家庭に、エデンの園の本来の祝福を回復することができるようになります。幸せな親、幸せな家庭が幸せな子どもを作り出す方法です。「あなたはこの祝福を伝える大切な人なのです」

根本が解決されれば、生活が変わります

聖書は、なぜ人々が嫌いなサタンと悪霊という暗やみの存在に対してずっと語っているのでしょうか。

「汚れた霊が人から出て行って、水のない地をさまよいながら休み場を捜しますが、見つかりません。そこで、『出て来た自分の家に帰ろう』と言って、帰って見ると、家はあいていて、掃除してきちんとかたづいていました。そこで、出かけて行って、自分よりも悪いほかの霊を七つ連れて来て、みな入り込んでそこに住みつくのです。そうすると、その人の後の状態は、初めよりもさらに悪くなります。邪悪なこの時代もまた、そういうことになるのです。」(マタイ 12:43~45)

理由は簡単です。たしかに存在しているからです。

少し前、アフリカのスーダン裁判所が自国民の女性であるマリアム・アブラハム(27歳)に背教疑惑を適用して、キリスト教をやめなければ死刑を宣告すると明らかにしました。スーダン公報長官であるアフメド・オスマンは「これは我が国だけの問題ではない」として「サウジアラビアをはじめとして、すべてのイスラム諸国は、イスラム教徒の改宗を許さない」と話しました。他の宗教を選んだと、いのちに対してむやみに決めるのが、はたして人間のための宗教でしょうか。聖書は宗教の問題でないと言います。宗教では解決できない根本的な何かがあるということです。

ヨハネの福音書 10章 10節には「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」というイエス様のみことばがあります。言い換えれば、人間のたましいと生活を盗んで滅ぼす存在があるということです。

聖書は、創造主の神様が宇宙万物と人間の生死と災いと祝福を治めておられると語っています。そして人間は、創造主の神様と交わる霊的存在として創造されて、まことの幸せを味わう祝福を受けたことを語っているのです。ところで、現在の人間は幸せではありません。その理由はとても簡単です。魚が水を離れるやいなや生存に飢え渴きが訪ねてくるように、人間が神様を離れた以後に、どんなのでも満たしてもらえない、生存に対する飢え渴きが訪ねてくるようになりました。そして、あきれほどの呪いと災い、運命の中で生きなければならない罪人という身分を持つようになりました。何ゆえに、そのようになったのでしょうか。その根本原因を提供した存在が、まさにサタンという霊的存在であることを聖書は明らかにしています。

サタンの誘惑に負けた人間は、神様とともにいる約束(善悪の知識の木の実)を破ってしまい、神様を離れて罪人になって、サタンの支配を受けるようになりました。それ以後、サタンは数多くの偶像と宗教を作り出して人間の生活を混乱させて、各種の悪霊活動に捕われて滅びるように追い込んでいます。それゆえ神様は、人間の根本問題を解決する「キリスト」を送ると約束してくださいました。そして、人間の根本問題を解決された「キリスト」こそが「イエス」であることを聖書は明らかにしています。人間の幸せな生活は、努力で始まるのではなく、信仰で始まるのです。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」ローマ 8:1~2



神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放して下さったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

私は天国に行くことができますか

いよいよワールドカップの季節がやってきた。サッカーを知らない人も雰囲気に乗せられて、ワールドカップは期待する。ワールドカップは今年ブラジルで開かれるのだが、競技方式はリーグ戦とトーナメントを混合する方式だ。先に全世界で32強に上がる国家代表チームを準備して、4チームずつ8グループに分けて、ひとつのグループ中にある4チームが、リーグ前に競技をした後に、2チームずつを選ぶ。ここに入るのを16強というのだが、こういう方式をリーグ戦という。このときは、一チームのなかで4組がすべてみな競ってみるのだ。16強からはトーナメントなので、相手方に勝てば8強、また勝てば4強、ここで勝てば決勝戦になる。一方、4強から脱落した二チーム間で3、4位戦をする。私たちが今、応援するのは韓国サッカーが、過去2002年に驚くべきことに4強に上ったことで、今回は8強に上がるかという期待を持ったからのだ。

このように、競技を予測することや、なにか事件が起きるとき、起きるかもしれない数を「場合の数」と言うのだが、確率と統計でだけ使われる。特に、数学者がこのような場合の数をたくさん常用する。ある日、数学者のパスカルが、信仰と天国に対して考えた。天国は信仰で行く。それなら、信仰を持った時の場合の数と、信仰がない時の場合の数を見てみた。もし、信仰があるとき、天国がないならば何も起きない。しかし、信仰があるとき、天国があるならば幸いだ。天国に行けるからだ。それでは、信仰がないとき、天国がないならば幸いだ。なにも起きないからだ。また、信仰がないとき、天国があるならば大変だ。天国に行けないためだ。それで、パスカルは、場合の数を見て、信仰がある時とない時の差を探し出した。

信仰があるとき、天国があれば天国に行けば良く、ないならば行けなくなる。損する必要がない。反対に信仰がないとき、天国がなければ行かなければ良いが、天国がもしあるならば天国に行けない。それなら、同じ状況で、信仰がないよりは、あるのが当然に良いのだ。

まことの数学者は、あらゆる事物を正義と原則によってだけ説明する。したがって、正しいと思うということは、明瞭な原則が存在するということだ。天国がないならば信仰があろうがなかろうが、関係がないためだ。しかし、もし天国があるならば信仰があれば幸運でも、信仰がなければ狼狽だ。したがって、同じ条件で信仰がないよりは、信仰があるのが当然良いのだ。商売人は無条件に売ろうとして、詐欺師は無条件にだまそうとする。

科学者は検証することだけ主張して、弁護士は勝つことができる事件だけを引き受ける。宗教人は、無条件に信じなさいと言って、数学者は、事実的な根拠を問い詰めて主張する。ないことを作ることは、技術者が上手にできるだろうが、ある道をうまく行くのは、信仰があるときに可能だ。

信仰も無条件に信じるのは盲信で、過度に信じるのは狂信であり、信仰の存在が不透明なのは迷信だ。天国は科学で実験できないが、科学者の頭の上で存在する実像であり、宗教人の信仰の上にある証拠であり、数学者の必要を満たす祝福だ。イエス様がキリストという単純だが明快な信仰があるとき、目には見えないが、明らかな天国を自分のこととして所有するようになる。

よくわからない天才数学者かもしれないが、単純な考えで考え出した場合の数を静かに探してみたい。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ